

行事報告

ザ・シンポジウムみなと in 石狩

平成30年12月20日(木)約250名が参加し、『北海道の暮らしを支える～エネルギー拠点 石狩湾新港』をテーマに「ザ・シンポジウムみなと in 石狩」が石狩市花川北コミュニティーセンターにおいて開催されました。

はじめに主催者代表として、「ザ・シンポジウムみなと実行委員会」の笹島隆彦委員長、次に開催地代表として、田岡克介石狩市長によるご挨拶をいただきました。

その後、「移住して感じた北海道の魅力」とのテーマにより、女優であり、タレントの千堂あきほ氏とフリーアナウンサーの野宮範子氏の記念対談が行われました。

対談では東京生まれの千堂さんが北海道に移住するに至った経緯、胆振東部地震による電気の大切さを改めて自覚したこと及び北海道における食材、エネルギーの可能性等について話されました。

次に北海道大学大学院工学研究院エネルギー環境システム部門特任教授の近久武美氏から「石狩湾新港が担う、北海道のエネルギー供給」とのテーマで基調講演をいただきました。

基調講演では①近年の異常気象の原因が化石燃料を燃やす際に発生する二酸化炭素であること、②二酸化炭素を発生させないエネルギー技術は主に原子力と再生可能エネルギーであるが原子力は安全性と放射能廃棄物処理について課題が指摘されていること、③風力・太陽光等の再生可能エネルギーは発電量の変動が大きいこと、安定供給には電力貯蔵施設が必要となること、④さらに発電適地が限定されること等の課題があることを発表されました。再生可能エネルギーはコスト上昇を伴わずに道内電力消費量の約50%を賄えるものの、それ以上に送電すると時々、再生エネルギーの発電量が消費量を上回り、廃棄される電力が増加するため、電気代が高くなってしまふこと、このため、余剰電力を用いた水素製造、自動車用燃料が可能となれば無駄のないエネルギー社会の構築に資することも話されました。

このような状況下、石狩

市は札幌市に隣接し、風力にも恵まれており、有望なエネルギー基地となり得ること、再生可能エネルギー利用や水素製造は地域経済の発展にも寄与することを話されました。

最後に「石狩湾新港が担う、北海道のエネルギー供給」とのテーマでコーディネーター野宮範子氏、パネリストとして北海道大学 近久教授、石狩市 田岡市長、北海道電力経営企画室担当部長・電源計画グループリーダー 木元伸一氏、グリーンパワーインベストメント専務執行委員 幸村展人氏及び女優・タレント 千堂あきほ氏によるパネルディスカッションを行いました。

パネルディスカッションではパネラーから再生可能エネルギーにおける石狩湾新港の優位性、再生可能エネルギー本格導入に向けた過渡期にはコストが上昇する対応として、ドイツでは民生用の電気代が日本の1.7倍となっていること、出力変動及び余剰電力対応としてLNG石狩湾新港発電所が出力調整に優れ、蓄電池量を減らすことが可能であること、石狩湾新港が次世代へのエネルギーを生んでさらに発展するには官民が知恵を出し合い連携することが重要等、貴重なご意見をいただきました。

基調講演、パネルディスカッションについては「海と港」第37号に掲載予定です。



開催挨拶
笹島実行委員長



開催地代表挨拶
田岡石狩市長



基調講演
北海道大学 近久特任教授



記念対談 千堂あきほ氏(右) 野宮範子氏(左)



パネルディスカッションの様子